

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

当該学年の前年度偏差値を、各教科で前年度以上、全体で1ポイント以上上げる。

## 3. 指標にむけての取組

○少人数指導や個別指導、習熟の程度に応じた指導、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導を行う。

○朝学習や自学ノート、週末課題を徹底し、家庭学習の定着を図る。

○基礎・基本の定着を図るために、定期テスト前のチャレンジタイム、テスト後のフォローアップタイムを行う。

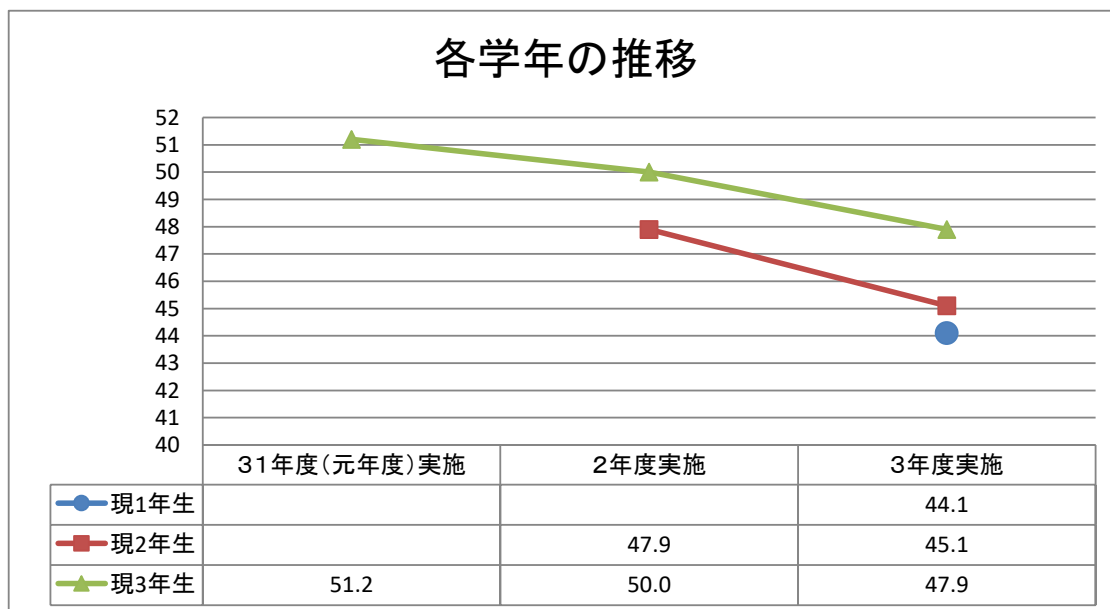
○形成的評価を工夫し、フィードバックをもとに、繰り返し学習や反復学習を実施する。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	29年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度
本校(A)	49.6	50.3	48.9	48.7	47.3
嘉麻市(B)	47.9	49.3	48.8	48.6	47.1
(A) - (B)	1.7	1	0.1	0.1	0.2
標準偏差値との差 (A) - (50)	-0.4	0.3	-1.1	-1.3	-2.7

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 各教科において偏差値の低下が見られ、授業改善及び家庭学習内容や家庭での過ごし方の見直しが必要である。
- 「読む」ことはできるが、資料分析、比較、さらには文章化する力に課題がある。
- 全学年において自学と課題プリントの指導により家庭学習の定着は進んでいるが、自学内容の改善が必要である。

## 6. 各学校における今後の取組

- 習熟の程度に応じた指導や発展的な学習、補充的な学習等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る。
- 実態分析を丁寧に行い課題を共有する。また、根拠を元に「書く」取り組みを学校全体で行う。
- 過去の調査問題や教材集・活用力診断テストを活用した授業を実施する。
- 基礎・基本の定着を図る朝学習の充実、定期テスト前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムの充実を図る。
- 家庭学習の定着を一層図るために、自学ノートと課題プリント、週末課題を徹底する。
- 小中学校において、自学や家庭学習に関して教員間で一層の共通理解を進め、質の向上を目指す。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「GoTo授業づくりチェック20」・「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
- ◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。